

2019年7月10日

『St. Paul's Librarian』第33号 正誤表

以下、訂正いたします。

お名前の誤りであり、失礼を心よりお詫び申し上げます。

誤		正
p.84, l.11	→	Kojima
Kojma		

講演会参加者からのリアクション

大塚 美紗 (文学部文学科文芸・思想専修)

Joan 先生の講演で貴重な体験を得ることが出来ました。

私は現在、司書教諭の資格と教職の免許を取ろうと日頃勉学に励んでいます。私が目指しているのは国語の教員です。本日の講演は児童文学をテーマにしていたため、司書教諭、また国語教員の仕事に大いに活用出来ることを学べたと感じています。ところで、私は児童文学について常に疑問に思っていることがあります。

私は子どもたちには読書の喜び、文字に触れる楽しさを経験して欲しいと思っています。その媒体は小説に限らず、漫画、絵本などでも良いのです。しかし、学校教育では漫画という媒体は軽視されています。例えば、学校教育では太宰治など、文豪が書いたようないわゆる文学作品を薦められます。また、読書感想文では漫画は対象に入りません。

しかし、果たしてそれが子どもたちのためになるのでしょうか。

私は読書が昔から大好きです。小説に限らず、漫画やライトノベルなどもかなりの量を読んできました。私は本からたくさんの世界を知り、考え方、人格にも影響を受けたと感じます。今所属する学科も、勉強している分野も、すべて小説や漫画から影響を受けて選択しました。

確かに日本の有名な文学作品に触れるなども大切なことだと思います。漫画を教育に取り入れるのにも様々な問題があります。しかし、無理矢理読ませても本の楽しさは感じて貰えないし、何の影響も受けないでしょう。本を読む楽しさを知るのはどの媒体でも良いのではないのでしょうか。私は学校教育での“本”が文学作品に限定され、その他の媒体が軽視されているのが不思議でなりません。

Misa Otsuka (Course of Philosophy and Creative Writing,
Department of Letters, College of Arts)

Thank you for today's lecture. I study about education and library studies. I want to be a teacher who teaches Japanese and a school librarian. I learned many things from your speech.

I think teachers should help student's learning. Students should be interested when they read books. I want students to read many books. When I was a student, I liked reading books and I learned a lot of things from them. I think teachers attach importance to "education." But I think teachers should also make students happy to read books. Teachers suggest books written by authors such as Osamu Dazai and Yasunari Kawabata. However, are these recommendations really for the students? People disregard comics and picture books in school. I think comics and picture books are very important because people can be influenced by them. I wonder if school libraries should do more than recommend just literary classics.

小嶋 美加留 (文学部文学科文芸・思想専修)

Joan 先生のお話の中で、「分かちあうための空間」という言葉が印象に残った。私は本を

読むことは、ただ本を読み終わっただけで終わりではないと考えている。読後、他者とその本について意見を交わし、考えを分かちあうことで読書はより深まると思うのだ。現状、日本の図書館ではこのような意見を交わす空間はほとんどない。大学図書館にあるようなディスカッションスペースや多目的ホールなどをもっと整備するべきではないかと感じた。

また、「絵本や児童書に重荷を追わせすぎている」というお話は、まったくもってその通りだと思う。過度に倫理的な内容では、子供は自分の考えをもって本を読み進めることができず、読書に面白みを感じられなくなってしまうのではないだろうか。道徳の教科書に載っているような教材が退屈に思えてしまうのと同じだろう。子供の読書はもっと自由であってよいはずだ。私は人をむやみに傷つけるような内容でない限り、子供の読む本を大人が制限する必要はないのではないかと考えている。

Mikaru Kojma (Course of Philosophy and Creative Writing,
Department of Letters, College of Arts)

In the lecture by Professor Joan, the word “space for sharing” made an impression on me. I think reading the book involved not just finishing reading. It is important to have an opinion and share it with others. Japanese libraries have little space to communicate with others. I think Japanese libraries needs to create space for discussion and a multipurpose rooms.

Also, I completely agree with Professor Joan’s idea that people expect too much of the picture book to teach morals. These books can make children dislike reading. Children’s reading should be freer. I think it is not necessary for parents to limit children’s choice of books unless the book could injure a person.

I got the opportunity to think about reading for children. Thank you, Professor Joan.

若山 恵利花 (文学部史学科)

多くの人は、児童文学といえば、子供向けであり、幼く、教育的な物語であるという認識を持っているでしょう。近年では、日本の昔話として知られている『猿蟹合戦』『カチカチ山』といった物語の結末は、いわゆる「ハッピーエンド」で終わるように変更がされています。要するに、児童文学は、幸せで、誰も犠牲にならない物語であり、優しく愛のある物語でなければならないのだという考え方が常識であるのです。私も、それが自然で当然のことであると思っていました。幼い子供に提供されるべきなのは温かな世界です。厳しい現実には、子供にとって刺激が強すぎ、悪影響を与える可能性もあります。しかし、新たなテーマとして「憎悪」「難民」といった重く辛いテーマのもとに書かれている物語があるというお話を伺い、驚きました。子供には綺麗なものしか見せてはいけないのではありません。このようなテーマを示すことで、子供たちが自ら考え、成長するための糧にすることができるのです。確かに、子供は大人が考えているよりもずっと物事を深く考え、真剣に向き合っているのだと言われます。つらい現実を隠し通すだけでなく、現実を見せることも子供たちの成長において大切なのでしょう。

教養的な意味を持つ本は多く存在します。私は、その中でも物語の持つ力が最も強いと思います。児童文学は、物語の中で伝統・礼儀・慣習などを簡潔に分かりやすく、自然に伝え

られる、子供にとってかかせない存在です。物語は、単純にこうしてはいけない、これはこういうものだ、と告げるものではありません。登場人物たちがめまぐるしく動き、感情をあらわにし、失敗し、成長するという「物語」を通じて、大切な倫理感を伝えます。ただ文字を並べられ、頭ごなしに言われるよりも、感情移入した物語から感じ取るほうが、よっぽど胸に深く刻まれるでしょう。今は、活字離れが進んでいるといわれる世の中です。しかし、物語は文字だけが伝える手段ではありません。口承という、人から人へ言葉によっても物語は継承されます。たとえ本という媒体が消えたとしても、物語が文字に記録されなくなったとしても、物語という存在は消えることはありません。物語は、私たちの心をゆさぶり、大切なことを伝えてくれる存在であり続けるでしょう。だからこそ、私たちは、子供たちの成長を助ける役割を果たせるように一人一人が物語の力について考えるようにしていくべきだと思います。

新たなテーマとして提示されている重いテーマは、子供たちにとって重要です。ただ、そのテーマを盛り込んだとしても、物語はやはり、楽しいものであり、わくわくするものであり、もっとたくさん読みたい、たくさんの世界に触れたいと思わせる力があると思います。何かを学ぶ際に、楽しみながら、自ら進んで興味をもてることが一番身に付きます。児童文学にはその力があります。児童文学が持つ力と重要性を理解し、この文化が途絶えないようにしていくべきだと感じました。

Erika Wakayama (Department of History, College of Arts)

Juvenile literature has been viewed as only stories for children that are educational and childish. Recently, well-known traditional Japanese tales, such as the “The Monkey and the Crab” and “Clack Clack Mountain” have had their endings changed so that they are the so-called “happy ending.” In this way, juvenile literature becomes limited only to stories in which nobody is sacrificed and all characters are happy. However, I was surprised to learn that there are stories based on difficult themes, such as “hatred” or “refugees.” Children think about things as deeply as adults. We should not show a child only beautiful things. They may grow up by exposing them to harsher themes. I feel that the important thing is that children think for themselves so they can become stronger.

A lot of educational books exist, but I think that the power of a story is the strongest. Juvenile literature can convey traditions, customs, and manners in a natural and concise way. Stories are indispensable for children. The story does not say clearly that something is bad, that you must not do something, or that something is best. Characters move busily and expose feelings, they fail, and they grow up. Such stories convey important values. We empathize with a story and the lessons taken away from the story affect the heart. In an electronic society such as ours, the number of book readers is decreasing. However, stories are conveyed not only through print. The story is also passed on by words from person to person. The story does not disappear even if a book disappears. The story shakes our heart and will continue to exist because it is conveying something important. Therefore, everyone should think about the power of a story and the role it can play a role in the growth of children.

This new use of heavy themes is important to children. But I think that they have power and encourage children to engage with the world. The story can be fun and exciting even if it includes heavier themes. And children will want to read more. The easiest way to learn something is when we enjoy the learning and get interested naturally. Juvenile literature has this power. I have come to understand the power and importance of juvenile literature and feel it is important that this cultural tradition continue.